

4 背後産業の国際競争力を支える名古屋港・三河港・衣浦港の整備推進について

(国土交通省)

【内容】

- (1) 名古屋港について、モノづくり中部の国際競争力を強化するため、船舶の大型化に対応した飛島ふ頭東側コンテナターミナルの整備を推進すること。また、完成自動車取扱機能強化のため、金城ふ頭の耐震強化岸壁(-12m)の整備を推進すること。
さらに、中部圏のモノづくり産業を物流面で支える「国際産業戦略港湾」として、必要な施設整備を確実に行うこと。
- (2) 三河港について、増大する自動車輸出入等に対応するため、神野地区において耐震強化岸壁である7号岸壁(-12m)と北防波堤の整備を推進するとともに、蒲郡地区の岸壁(-11m)の整備を促進すること。
また、併せて国際拠点港湾への昇格を図ること。
- (3) 衣浦港について、バルク貨物の集約化や船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震時における緊急物資の受入拠点としての役割を担うため、衣浦ポートアイランドにおいて耐震強化岸壁(-12m)の整備の検討を進めること。
また、衣浦港の物流機能の中核をなす中央ふ頭の岸壁(-12m)の整備を推進するとともに、臨港道路中央ふ頭西線の整備を促進すること。
- (4) 南海トラフの地震・津波や高潮等に対する名古屋港・三河港・衣浦港の総合的な防災対策を推進するために必要な措置を講じること。

(背景)

- 名古屋港は、コンテナ貨物、完成自動車及びバルク貨物を取り扱う総合的な港湾であり、我が国の経済・産業の成長を牽引する中部地域のモノづくり産業を支える港湾である。

日本経済の成長実現のためには、当地域のモノづくり産業のさらなる成長による競争力強化が不可欠であり、それを支える港湾機能の強化が急務となっている。

このため、近年、コンテナ船の急激な大型化が進んでおり、特に貨物量が急増している東南アジア航路の貨物を主に取り扱っている飛島ふ頭東側コンテナターミナルでは、現状でも水深が不足していることから、更なるコンテナ船の大型化に対応するため、コンテナターミナルの取扱機能の強化を推進する必要がある。

また、金城ふ頭の完成自動車取扱機能の強化等を推進する必要がある。

さらに、高付加価値を産み出す産業、とりわけ基幹産業である自動車産業や次世代産業である航空宇宙産業を強力にサポートする必要がある、「国際産業戦略港湾」として、国際競争力を強化していくことが極めて重要である。

- 三河港は、完成自動車の国際海上輸送のハブ港として、引き続き、我が国の自動車産業を支える重要な役割が求められている。

自動車流通港湾としての機能強化を図るとともに、大規模地震時の緊急物資の受入拠点としての役割を担うため、さらなる物流基盤の整備を急ぐ必要がある。

- 衣浦港は、石炭、穀物などのバルク貨物を主に取り扱う物流・生産活動を支える工業港として、重要な役割を果たしている。

港奥部に混在するバルク貨物の集約化や、大型化する船舶に対応するとともに、大規模地震時における海上の緊急物資受入拠点としての役割を担うため、衣浦ポートアイランドを物流の中核拠点として早期に整備するための検討を進める必要がある。

また、中央ふ頭の岸壁(-12m)並びに臨港道路中央ふ頭西線は、施設の老朽化が著しく、施設の延命化と安全性を確保するため早急な対応が必要となっている。

- 平成26年度までに、南海トラフによる地震・津波や高潮による浸水想定を行い、第3次あいち地震対策アクションプランや海岸整備における計画のほか、港湾BCPを策定した。

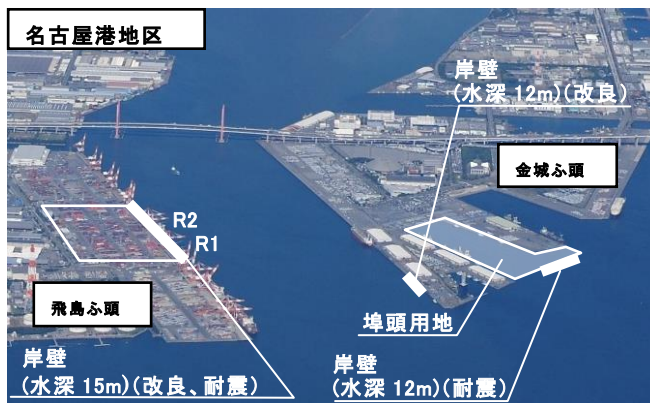
これらの計画に基づき、海岸堤防、水門などの海岸保全施設や防波堤、岸壁を始めとする港湾施設の機能強化を推進する必要がある。

また、堤外地における津波・高潮へのハード・ソフト対策についての新たな補助制度の創設などが必要である。

(参 考)

名古屋港

既存の岸壁を有効活用することで、貨物量の増加や船舶の大型化に対応した水深 15m の耐震強化岸壁を整備(飛島ふ頭)完成自動車取扱機能の強化を図るため、港内に分散・点在するモータープールの集約化を図るとともに、船舶の大型化に対応した水深 12m の耐震強化岸壁を整備(金城ふ頭)



三河港

完成自動車の増加や船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震時には、緊急物資の受入拠点としての役割を担う、水深 12m の耐震強化岸壁を整備



衣浦港

バルク貨物の集約化や船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震時には、緊急物資の受入拠点としての役割を担う、水深 12m の耐震強化岸壁を整備

